

令和7年度秋保環境保全米プロジェクトの「秋保米」稲刈り体験が、10月2日に仙台市太白区秋保町の秋保森安地区で実施された。この取り組みは、秋保の温泉旅館を訪れた観光客に、美味しく安全安心なご飯を食べてもらおうと2009年から始まり、今回で17年目となる。

今回の稲刈りには、生産者や温泉旅館関係者、地元小学校の4・5年生など約50名が参加。前日の大雨でほ場はぬかるんでおり、参加者は泥に足をとられながらの作業となった。

作業の前に、農事組合法人あきう生産組合監事の中野勲さんから「左手の親指を上向きにして稲束を握り、鎌で刈り取る。怪我には十分気を付けて」と指導があり、注意深く作業を開始した。子どもたちは、春に自分たちで田植えしたイネの生長を実感しつつ、刈り取ったものを束にして丁寧に積み上げていた。

稲刈り後は昼食会が開かれ、「秋保米」の新米おにぎりや豚汁、三角油揚げなどが振る舞われた。参加者からは「炊きたての新米はつやつやと光り、甘みがあってとてもおいしい」と好評だった。

参加者で集合写真



稲刈りをする子ども達



【記事提供】 仙台市農業委員会